

Editor's Choice

今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月は人気のソフトウェアのバージョンアップが目白押しだ。「Adobe PageMill 2.0J」はフレームなどに対応して使い勝手がよくなったHTMLエディター。「EUDORA PRO for Windows Ver3.0」は人気の電子メールソフトウェアだ。「PROXY97」は端末型ダイヤルアップ接続でネットワーク型ダイヤルアップと同様の接続が実現できるソフトウェアだ。「これと英!」は電子メールとの連携を考えた和文英訳ソフトウェア。「背景王」はホームページの背景に使える多くの素材と、素材を加工するためのソフト。そしてリコーのDC-2Eはコストパフォーマンスに優れた完成度の高いデジタルカメラだ。

今月のラインナップ

フレームやテーブルに対応したホームページ作成ソフトの定番

Adobe PageMill 2.0J

[発売元] アドビシステムズ株式会社



EUDORA PRO Ver3.0

[発売元] クニリサーチインターナショナル



端末型ダイヤルアップでLANとインターネットをつなぐ

PROXY97

[発売元] 株式会社ブレーン



電子メールでの使い勝手を考えた和文英訳ソフト

これと英!

[発売元] カテナ株式会社



1,500種の素材データが付属する画像合成ツール

インターネット背景王

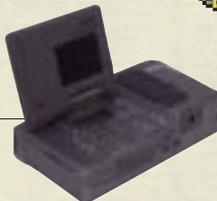
[発売元] 株式会社システムソフト



デジタルカメラの人気モデルが機能を抑えて登場

DC-2E

[発売元] 株式会社リコー



付録のCD-ROMに収録

このコーナーの見方



市販のハードウェア製品



市販のソフトウェア製品



シェアウェアのソフトウェア



フリーウェアのソフトウェア



ウィンドウズ95用



ウィンドウズ3.1用



ウィンドウズNT用



OS/2用



マッキントッシュ用



UNIX用



動作環境



発売元



電話番号



価格



関連情報



バージョン



作者/開発元



入手先

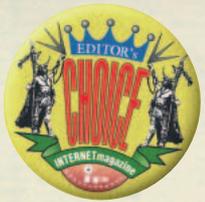


付属品



ファイルサイズ/最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。



フレームやテーブルに対応したホームページ作成ソフトの定番

アドビ・ページミル2.0J

Adobe PageMill 2.0J



17,800円



アドビシステムズ株式会社

ここがスゴイ!

- ① ドラッグ・アンド・ドロップで簡単な操作
- ② フレームやテーブルにも対応
- ③ ネットスケープのプラグインをサポート

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



マッキントッシュユーザーにはおなじみのホームページ作成ソフト、Adobe PageMillが、2.0にバージョンアップした。PageMillは、HTML言語を知らない初心者でも、頭に思い描いたとおりのホームページを直感的なマウス操作で簡単に作成できるソフトだ。もちろんHTMLファイルのソースコードを表示しながらの編集も可能であり、上級者、プロの要求にも十分耐えるソフトとなっている。

▶ ドラッグ・アンド・ドロップでホームページの作成が可能

PageMillを使えば、発信したいテキスト、画像などの素材をそろえて、ドラッグ・アンド・ドロップで配置するだけでホームページが簡単に作成できる。テキストはワープロ感覚で直接入力も可能だ。画像の大きさの変更や、回り込みの指定、フォントの変更、相対的なフォントサイズの変更など高度なテキスト処理も、ツールバーボタンを使えば簡単にできる。また、透明化やインターレース化などの画像編集も簡単にできる。画像のサイズと実際の表示されるまでの時間情報をモデム速度ごとに表示する機能もある。リンクの作成も、リンクしたい画像やテキストを選択して、リンク先のページアイコンをドラッグするだけで可能だ。さらに、「カラーパレット」を使えば、背景やテキストの色指定もドラッグ・アンド・ドロップで瞬時にできる。マルチページの「ベストボード」を使えば、テキスト、画像、リンクなどを保存して繰り返し使えるので非常に便利だ。

▶ フレームやテーブルに対応

1.0では対応していなかったフレームとテーブル作成もできるようになった。

フレームの作成は枠の線を「Option+ドラッグ」するだけでOK。テーブルもドラッグ・アンド・ドロップで作成可能であり、サイズの変更、画像とサウンド、ムービーのテーブルへの追加、キャプションの追加も可能だ。また、マイクロソフト社のエクセルで作成した表をHTMLのテーブルに変換して張り付ける機能もある。

フレームを作成するには、左あるいは上枠の線を「Option+ドラッグ」する。フレームの大きさ変更も枠をドラッグするだけなので、実際の見栄えを確認しながらフレームを作ることができるのは嬉しい。各フレ

ームの編集は通常のページの編集とかわりなくできる。

▶ ネットスケープのプラグインをサポート

PageMillには実際にテキストの入力、編集、画像の処理、リンクの作成などを行う編集モードと、Webブラウザで実際にホームページが表示され動作する様子を確認するプレビューモードがある。これらのモードは、画面右上端にあるアイコンをクリックすることにより即座に切り替わりホームページの実際のイメージを確認しながら編集作業ができる。また、ショックウェーブ、クイックタイムムービー、PDFビューアー、MPEGムービーなどのネットスケーププラグインにも対応しており、それらをドラッグ・アンド・ドロップで配置し、プレビューモードで即座に動作確認できる。

なお、これらの機能を使用するためには、ネットスケープのプラグインをPageMillの専用フォルダーにコピーする必要がある。ただし、Javaアプレットに関しては認識はするもののプレビューができない。またMIDIファイルの再生には対応していないようだ。

▶ 他にもさまざまな機能がある

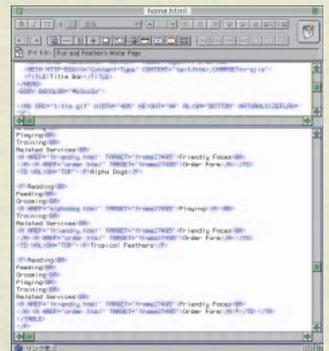
他にも、クライアントサイドイメージマップへの対応、テキストやグラフィック、リンクなどホームページの要素の検索、置換機能、英文のスペルチェック機能など、新機能が満載されている。また、画像やHTMLのサンプルが同梱されており、初心者でもこれを利用してホームページを作成できるだろう。

ところで、PageMillといえばサイト管理ソフトの「Adobe Site Mill」と連携して使えるのが特長だが、PageMill 2.0Jの場合、SiteMill1.0Jとの連携はできない。PageMill 2.0のさまざまな新しい機能にSite Mill1.0Jが対応していないからだ。アドビシステムズ株式会社によると、今年の初夏には、PageMill2.0Jと連携できる「SiteMill 2.0J」が発売される予定だという。

なお、ウィンドウズ95版のPageMill 2.0Jも、同じ時期に発売が予定されている。

(梅垣まさひろ)

④ 「属性情報パレット」でこまかな設定も可能だ。



⑤ HTMLソースを表示しての編集も可能。高度なページ作りにも安心だ。

Adobe PageMill 2.0J



アドビシステムズ株式会社



17,800円



2.0



03-5423-1860



<http://www.adobe.co.jp>



人気の電子メールソフトがバージョンアップ

EUDORA PRO Ver3.0



12,800円



株式会社クニリサーチ
インターナショナル

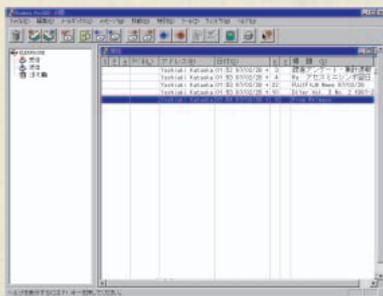


ここがスゴイ!

- 1 フォルダー間のメールがドラッグ・アンド・ドロップで移動できる
- 2 強力なフィルター機能

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



① ツリー表示ができるようになった

電子メールソフトはインターネットのツールの中では定番といえるものがない。ただ、限りなく「定番に近い」電子メールソフトを1つ挙げるとすれば、EUDORA PROになるのではないだろうか。ウィンドウズとマッキントッシュの両プラットフォームに対応した電子メールソフトウェアとして人気の高い、EUDORA PROの最新バージョンがいよいよリリースされた。メールの自動振り分け機能や分かりやすいフィルターの設定方法はそのままに、バージョン3.0では細かい見直しが図られている。

▶ 細かい点で使い勝手が向上

ほかにもさまざまな機能が改良されている。メールの中に記述されたURLをクリックするとWWWブラウザが起動してページを表示する「クリッカブルURL」機能はバージョン2.0から使えたが、URLの部分の色が他の部分と変わらず、見にくかった。3.0ではURLの部分は違う色で表示するように指定でき、下線も表示される。また、新規作成文書や返信文書として定型文書を登録できるようになり、決まり文句を指定しておけば手間が省けるようになっている。

HTMLメールも使えるようになったが、EUDORA PRO独自のもので、マイクロソフトの「インターネット・メール・アンド・ニュース」やネットスケープ社の「ネットスケープメール」との互換性はなかった。

ちなみに添付ファイルの形式はMIME (Base64)、uuencode、BINHEXに対応している。また、「サーバーにメールを残す」設定のときに未読メッセージを転送する際には、まだ転送していない最初の記事を転送するか、メッセージ情報のステータスが未読になっている着信メールを転送するか、POP3の「LAST」コマンドを利用するかを選べる。

▶ 検索機能が少し弱い

以上のようにさまざまな点で改良されたバージョン3.0だが、不満な点もある。

まず、検索機能が挙げられる。本文の文章を検索できるが、フォルダーを指定しての検索はできない。いちいちすべてのフォルダーにある文書を検索してしまうので、効率が著しく落ちる。この点はバージョン2.0からの課題だが、ぜひ改良してもらいたい。

また、多くのメールソフトウェアで可能なプレビュー機能ができないのも、不満に思う人は多いと思う。

ネットスケープメールからこのソフトへの移行は「INBOX」というファイルに「.mbx」という拡張子を付けることによって可能だが、インターネット・メール・アンド・ニュースからのメールボックスを流用しての移行はできなかった。

このようにいくつかの難点はあるが、電子メールソフトウェアとしての基本的な機能は備えており、動作も安定しているEUDORA PROは、数あるソフトウェアの中でもおすすめできる。

(編集部)

▶ フォルダー間のドラッグ・アンド・ドロップができる

バージョン2.0では、メールをドラッグ・アンド・ドロップで他のフォルダーに移動できなかったが、3.0で可能になった。

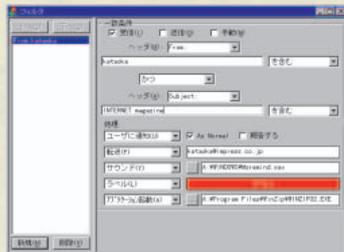
ユーザーインターフェイスの点で大きく変わり、フォルダーがツリー表示されるようになった。メールの一覧リストからツリー表示された他のフォルダーにドラッグ・アンド・ドロップできる。EUDORA PROはプレビュー機能がないので、一覧リストをダブルクリックしてメールを読む。開いたメールも、直接ドラッグ・アンド・ドロップできる。

▶ 複数アカウントが使用できる

複数の人で1つのEUDORA PROを共用もできるようになった。家族やグループで使い分ける場合に便利な機能だ。この場合、「オプション」に使用するユーザーごとに新たにフォルダーを作る必要がある。

▶ フィルター機能が強力に

EUDORA PROはメッセージのフィルター機能の使いやすさに定評があったが、この機能がさらに強力になった。バージョン3.0ではフィルター条件を複数設定し、メッセージを仕分けするだけでなく、返信、転送、回送、印刷などが自動的にできるようになった。受信したメールに対して、連続して5種類の処理を設定し、より複雑な定型処理ができる。



② フィルターでは2つの検索条件と5つのアクションが設定できる。

EUDORA PRO Ver3.0



クニリサーチインターナショナル



12,800円



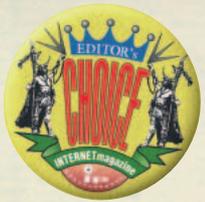
3.0



06-441-0234



http://www.kuni.co.jp/



端末型ダイヤルアップでLANとインターネットをつなぐ

プロキシ-97

PROXY 97

ここがスゴイ!

- 1 端末型ダイヤルアップ接続でネットワーク型ダイヤルアップを実現
- 2 FTPやリアルオーディオにも対応

PROXY97はPROXY95の上位バージョンにあたる。ウィンドウズ95とNTで動作するダイヤルアップ専用のプロキシサーバーだ。PROXY97でプロバイダーと接続すると、LANでつないだ他のマシンからもインターネットを利用できるようにする。本誌の96年12月号でPROXY95を紹介した際に指摘したいくつかの問題点もクリアしている。GUIベースの設定画面を新たに用意し、ウィンドウズNT4.0のサービスとしても動くなど、パワーアップされている。

▶ GUI画面で使いやすい

PROXY95はMS-DOSプロンプトから起動するちょっと特殊なソフトという雰囲気があったが、PROXY97では設定画面などすべてがGUI化され、非常に分かりやすくなった。設定内容もシンプルで、ダイヤルアップ接続などの設定を経験済みならほとんど迷うことはないだろう。接続に必要なプロバイダーの名前やメールアドレス、メールアドレス、ニュースサーバー、TELNETで接続するサーバー名といった設定をきちんとやれば苦もなく、動かすことができる。あとは、ネットワーク上のクライアントマシン側のソフトで、PROXY97を動かしているマシンのローカルIPアドレスをプロキシサーバーとして設定するだけだ。メールに関しても、PROXY95では複数のアカウントを使うためにTCPポート番号を変えるなどの厄介さがあったが、PROXY97は電子メールソフトのメールサーバーをPROXY97のマシンに変えるだけでOKだ。クライアントのマシンからネットワークを動かしたり、メールを読もうとしたりすれば、PROXY97が自動的に決められたプロバイダーと接続して、ネットワークを開いてくれるし、もちろん一定時間使わなければ自動的に切断される。

▶ FTPとリアルオーディオにも対応

懸案であったFTPとリアルオーディオにも対応し、クライアントとしてのインターネット利用にはこれで完璧な対応と言えるだろう。しかも、新たに装備した「PLAIN PROXY機能」を使えば、TCP/IPベースで動作するどんなソフトでもPROXY97経由で利用できるようになった。特殊なTCPポート番号を利用するソフトウェアや、インターネット上のゲームを楽しむことも

【ユニークさ】
【コストパフォーマンス】
【使いやすさ】
【期待度】
【総合】

おすすめ度

できるのだ。ここまでの機能がそろっていれば、ほとんど専用線感覚で使える。ISDNでTAを使ったダイヤルアップ接続環境なら、接続も瞬時だし、ますます快適だ。快適なあまりつなぎっぱなしになってしまうのは、コストを抑えるという目的からしても本末転倒だが、これだけのことが端末型ダイヤルアップの料金だけでできるわけだから、利用しない手はない。

▶ ウィンドウズNTではサービスとして動かす

ウィンドウズ95でPROXY97を動かす場合は、スタートアップメニューに加えておき、常にユーザーがログオンした状態で使うわけだが、NTなら「サービス」として利用することができるからログオンしている必要はない。本来プロキシはサーバーとして動かすものなので、ウィンドウズ95で使う場合でも、そのマシンをクライアントとしては使わないほうがパフォーマンス上も運用上も良いだろう。クライアントとして使わないのならウィンドウズNTのほうが安定した運用という点でもおすすめする。

▶ 高度な使い方もできる

実は、このPROXY97にはGUI画面だけでは設定できない高度な使い方が存在する。2つのプロバイダーを交互にダイヤルする、使用時間の上限を設定する、接続先によってダイヤルアップ先を変えるなど、ある程度の知識を要求される細かな設定は、定義ファイルを作成することによって可能になっている。こういった情報は、付属のドキュメントファイルはもちろんだが、PROXY97のメーリングリストが運営されていて、その中でも交換されており、ユーザー同士の問題解決のための助けともなっている。欲を言えば、プロキシサーバーのもう1つの役割であるキャッシュを備えるものになれば、完璧といえるだろう。このソフトには、さらなる進化を望みたい。なお、端末型ダイヤルアップ接続で、契約者本人以外の利用を認めないプロバイダーも存在するので、利用規定など事前に確認してから利用してもらいたい。(梅垣まさひろ)

¥ 39,000円 エンタープライズ版(制限無)
7,000円 スタンド版
(シェアウェアは5ユーザーまで)

株式会社ブレイン



GUI化された設定画面が分かりやすい



ブラウザを使ったりリモート管理もできる。

PROXY 97

株式会社ブレイン
0425-82-0222
39,000円(エンタープライズ版)
7,000円(スタンド版)
株式会社東京ネットワークセンター
0426-48-9993
<http://www.brain-tokyo.co.jp/proxy97.html>



12,800円



カテナ株式会社



これと英!

ここがスゴイ!

- 1 電子メールソフトウェアと連携して使える。
- 2 訳語をポップアップして表示できる。

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

翻訳例

常時接続サービスこそOCNの真骨頂

OCN (オープン・コンピュータ・ネットワーク)とは日本電信電話株式会社(NTT)が提供するインターネット接続サービスのことだ。通常の電話回線網を使った接続サービスとは違い、コンピュータ通信専用のネットワークを接続に使っている。データ通信に特価することでコストを引き下げ、接続サービスを安価に提供できることがセールスポイントとなっている。従来の専用線サービスと違い、距離によって料金が加算されない。提供エリア内であれば、どこでサービスを利用しても料金は同一である。

Always, connection service, the top of the right bone of OCN. OCN (opening・computer・network) is the thing of the Internet connection service that a Japanese telegraph telephone incorporated company (NTT) provides it. A network only for the computer communication is being used for the connection unlike the connection service which a usual telephone circuit net was used for. Reduce a cost with what a special price does for the data transmission, and it is a sales point that a connection service can be provided at a low price. A charge isn't added unlike the special usual line service by the distance. A charge is the same wherever a service is used if it is in the offer area.

どうも、その後いかがでしょうか。

ところでこの前言った例のおすすめの店、今度いっしょに行きませんか? なにしろ、めしも酒も、飲み食いし放題だというじゃないですか、なかなか最近、いい店が見つからないので、すごく興味があります。そちらが忙しいのはいつ頃までですか? 連絡ください。こっちは毎日けっこう暇なので、気が向いたときに呼んでもらえれば、すぐに行きます。

というわけなので、ご連絡お待ちしております。よろしく。

Very much. How do you like it after that?
By the way, doesn't a store to say the other day and where *おすめ* of *た* example can be finished and which *た* go together next time?
Anyway, do both *めする* and *liquor* do eating and drinking, and is there *じゃ* that it is *放* title in it?
Pretty recently, it is interested terribly because a good store is *た* found. Until about when is it to be busy *【た】*? Give me contact. It is called soon when a mind faces it because it is very free every day.
Wait for contact, and it *ます* because it is a reason. Well.

私が最近思っていることは、インターネットがとて普及しているということです。その理由は、インターネットに接続するためには必ず利用しなければならない、インターネット接続サービスプロバイダーの数が非常に急速に増加していることを、インターネットマガジンの巻末の記事を見ることにより知ったからです。今までは私たちが取得できなかった、世界中のさまざまな情報を瞬時に取得できるという特性を持つインターネットが普及することによって、私たちはさらに便利な環境を得ることができました。

Internet very much popularized thing
The reason is because it knew that the number of the Internet connection service provider which you must surely use to connect it in the Internet was on the increase very rapidly by seeing the article of the end of a book of *インターネットマガジン*. We could get a convenient environment further by the Internet which had the character that information in the various worlds when we couldn't acquire it could be acquired momentarily until now being popularized.

インターネットの普及で英文和訳ソフトウェアが目まぐるしく注目を浴びている。安価なものも多く出てきたのも要因の1つだが、一方で安価な和文英訳ソフトウェアも増えてきた。今回紹介するのは低価格の和文英訳ソフトウェアの1つ「これと英!」だ。安価な英文和訳ソフトウェアとして人気の「こりゃ英和!」でおなじみの株式会社カテナがリリースした。電子メールソフトウェアでの使い心地を考えた作りとなっている。

▶ 電子メールを意識した和文英訳ソフト

これと英! は単独でも使えるが、電子メールソフトウェアやワープロなど、別のアプリケーション上で使うことも考えて作られている。「クリップボード翻訳」を選べば、他のアプリケーション上で選択した言葉をコピーしたり切り取ったりしただけでポップアップで翻訳結果が出る。

ツールバーには「日本のところ」というメニューがあ

る。ここにはさまざまな挨拶の決まり文句が書かれている。たとえば「書きだし」の中から「お仕事はうまくいっていますか?」を選べば、自動的に「Are you enjoying your work?」という訳語が表示される。手紙のやり取りで使われる文章が多い。

また、ウィンドウズのMAPIに対応しており、ツールバーの「メニュー」から「送信」を選べば、MAPI対応のメールソフトウェア(インターネット・メール・アンド・ニュースやEUDORA PROなど)が起動し、すぐに電子メールを送信できるようになる。

このように、電子メールを送信する際に使うことを強く意図して作られている。

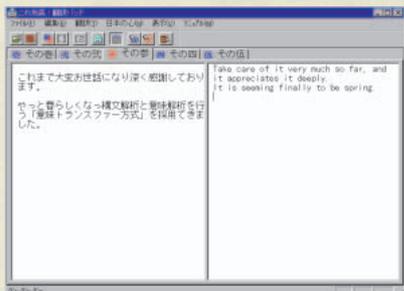
▶ 英訳の精度は高いが不満な点もある

これと英!の価格は12,800円と、和文英訳ソフトとしてはもっとも安価な水準にあるが、和文英訳ソフトとしての機能は充実している。基本辞書は約5万5000語を収録しており、辞書引きもできる。

翻訳精度は左の翻訳例を参考にさせていただきたい。口語の翻訳は極めて苦手で、「どうも」などのあいまいな表現は英語にできない。ビジネス文書のようなきちんとしたものであれば、関係代名詞などを使って、文の構造としては無難に訳している。ただし、主語がない文の場合、訳が変になるので、主語を必ず付けるようにした方がいい。また、NTTの英文の企業名が正しくなかったり、部分的に日本語が混ざってしまう点が少し気になる。

▶ 手ごろな価格で期待が持てるソフト

カテナ株式会社は「LOGO VISTA E to J」など、高価格の翻訳ソフトウェアを発売しており、翻訳精度の高さが人気を左右する翻訳ソフトウェア市場で定評がある。そのようなソフトウェアメーカーが作ったという安心感と、手ごろな価格が魅力のコストパフォーマンスが高いソフトだと言える。欲を言えば先月号で紹介した「ROBOWORD」のように、ポップアップメニューで何の操作もなしに自動的に表示されるような機能も欲しいが、電子メールでの使い勝手を考えた和文英訳ソフトとして完成度は高いものと思われる。今後は専門分野に特化した辞書の追加オプションなど、ラインアップが広がることに期待したい。(編集部)



①左に日本語、右に英語が表示される。「日本のところ」という見慣れないツールバーが特長。

これと英!



カテナ株式会社



12,800円



1.0



0423-38-1118



http://www.catena.co.jp/soft/0133/index.htm



1,500種の素材データが付属する、画像合成ツール

インターネット背景王

ここがスゴイ!

- ① 著作権フリーの1,500の素材データ
- ② ホームページ作り便利な画像加工ツールが付く

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]



12,800円



株式会社システムソフト



インターネット背景王は、背景画像作成ツールが付いた素材集である。登録されている素材は1,500種類にも及び、すべて著作権フリーだ。ホームページのバックグラウンドやデスクトップの壁紙の作成はもちろん、ホームページでよく使われる画像の影付けや、エンボス加工、写真の枠付けなどができる画像加工ツールが付属している。

▶ 背景をきれいにしたい

何気なくいろんなホームページを眺めていると、ググッと目をひくページに出会うことがある。そういうページは色のバランスが良く、しかも控え目で品のいい画像がさり気なく使われていたりするものだ。画像をただベタベタと張り付けてもきれいなホームページはできない。しかし、センスのいい綺麗な画像など誰にでも作成できるわけではないし、何よりもそこだけに時間をかけていられるほど暇ではないのだ。そんなときに活用したいのが素材データ集だ。

インターネットの画像となると、どうしても何種類もの画像データ集を買い集めることになってしまう。「インターネット背景王」は、ホームページ作成で活用できそうな素材が程よくミックスされているから、これだけあればとりあえずホームページ作成には事足りる優れたものだ。

▶ ミックスする楽しみ

背景王の面白い点は、複数の素材をミックスしたり加工したりできるソフトウェアが付いていることだ。メイン機能であるミキサー画面を見てみると分かるように、いろいろなフィルターが用意されている。「Lighter」「Darker」ボタンはそれぞれ2つの画像の明るさ暗さを比較し合成し、「Plus」「Minus」ボタンで画像を加減算する。

また、ぼかし機能の「Blur」や、画像をマスクングして合成する「Mask」などが用意されている。これらの効果をコントロールするためのスライダーを動かすとさらに自由度の高い合成ができる。1,500種類の素材の中には合成を考慮したパターンが豊富に用意されているので、面白い効果が得られる。画像合成は、ときには思いもよらない色や効果が得られることがあり、

絵の具を混ぜているような楽しさがある。

▶ ホームページ作りを意識した出力機能

加工ツールはホームページ作りを意図している点としては、独特の出力機能が挙げられる。出力フォーマットは、BMP、GIF89a、JPEGの3つに対応しているのだが、作成した画像をただ出力するのではなく、タイル状にしたり、また、画像の大きさを調整したりできる。画像サイズを変えるためのフィルターも用意されているので、できあがりの画像もきれいだ。

もう一つ、BMPコンバーターという機能がある。メイン画面のファイルメニューにあるのだが、BMPファイルをGIFやJPEGのファイルにまとめて一気に変換できる機能だ。素材データを合成せずにそのまま使うときなどには、付属のCD-ROMからまとめてGIFファイルなどに変換しておくとも使いやすい。付属素材の専用コンバーターではなく、汎用のコンバーターとして使用できる。

▶ 背景作成に特化したソフトウェア

実際に「あ」という文字など、素材集から取り出して影付きの模様の付いた文字を作成してみた。ほかした文字と、模様を付けた文字を最後に「Mask」機能を使って合成してみた。これは背景というより、ホームページのタイトルなどに使いたい機能だ。使い始めて30分ほど操作を練習したら、この程度の画像を簡単に作れた。本格的な画像編集ソフトと比べれば機能は劣るが、背景作成という機能に絞られていることが功を奏している。もちろん、画像の作成に慣れていない初心者には、使いやすいソフトとしておすすめだ。

ただ、気になった点もある。ミキサー画面でのボックス間の画像のコピーや画像の位置を変える移動機能が、メニューから選べずに、操作を発見するのに手間取った。「CTRLキーを押しながらドラッグ・アンド・ドロップ」などという操作が割り当てられているのだが、説明書をざっと読んだだけでは分からなかった。しかし、操作の難しいソフトではないし、慣れてしまえばどうということはないだろう。単なる素材集ではない点に買い得感があるソフトウェアだ。

(梅垣まさひろ)



① 1,500種の豊富な素材。バラエティーに富んでいてすぐ使える。



② 「あ」の文字。ホームページに使いたい影付き文字だ。

インターネット背景王



株式会社システムソフト



092-752-5264



12,800円



1.1



http://www.systemsoft.co.jp/PRO
DUCTS/systemsoft/ih_main.html



デジタルカメラの人気モデルが機能を抑えて登場



株式会社リコー



69,800円



DC-2E

ここがスゴイ!

- ① 機能をシンプルにして低価格を実現
- ② 41万画素のCCDを持つクラスの中では良い画質

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



① 折りたためる液晶モニターが特徴。



② PCカードスロットにカードを差せば、さらに多くの枚数が撮れる。



③ このクラスの中では標準的な画質だが、発色が美しい。

リコーのデジタルカメラ「DC-2」シリーズと言えば取り外しのできる大きな液晶や音声録音など、他社にはないユニークな機能が特徴だ。付加機能だけでなく、画像の美しさや使いやすさなど、デジタルカメラ本来の機能でも高い性能を誇っている人気機種である。そのDC-2シリーズに最新機種「DC-2E」が登場した。2焦点切り替え、ストロボなど多機能だった従来の機種が単焦点になり、ストロボが付かなくなった。その分価格は安くなり、69,800円と売れ筋の価格を実現している。

▶ 機能をシンプルにして価格を下げた

リコーのDC-2シリーズには「DC-2L」と「DC-2V」の2機種があった。最初に登場した「L」は2焦点から選択できるようになっており、ストロボが付いている。「V」は「L」の機能をそのままに、通信機能と内蔵メモリーを2Mバイトから4Mバイトに増やしたモデルである。価格は「L」が89,800円(液晶モニターが付かないモデルは69,800円)で、「V」が108,000円で、いずれも、現在のデジタルカメラの売れ筋価格帯の5万円から8万円の価格帯から見ると、少し高めには感じられた。今回登場した「DC-2E」は液晶モニター付きで69,800円と、従来よりも安価に設定されている。

▶ 画素数は41万画素

「DC-2」シリーズのCCDカメラはすべて41万画素で、新発売のDC-2Eも変わらない。これは現在のデジタルカメラの標準的なスペックであり、Webで見るならこの程度で十分である。

解像度は768×480ドットで、レンズの焦点距離は3.7mmだ。35mmフィルムに換算すると35mmレンズ相当になる。絞りはF2.0からF11まででシャッター速度は1/8から1/1000まで。実像式ファインダーを備えており、1.8インチのTFT液晶モニターを見ながらの撮影もできる。最大近接撮影距離は1cmで、名刺や書類なども撮影できる。電池は単3アルカリを4本か、充電タイプのニッケル水素電池やニッカド電池を利用できる。DC-2LやDC-2Vに装備されていた音声録音はできず、フラッシュも付かない。ピントはマニュアル露出が可能だ。また、取り込む画像を確認しながら露出やピントを再調整する「RAボタン」が装備されている。

▶ パソコンへの転送はシリアルかPCカード経由

外部出力インターフェイスにはパソコンとシリアルケーブルでつなぐためのコネクタがあり、ここからパソコンに転送できる。一方で、PCカードスロットにTypeカードを入れてそこに記憶させることもできる。内蔵メモリーは2Mバイトで、撮影した画像はJPEG方式で圧縮される。画質モードは3種類で、5MバイトのPCカードの場合、ファイン方式で25枚、ノーマルモードで51枚、エコミーモードで103枚撮れる。なお、PCカードはオプションで、標準では添付されない。

▶ 画像取り込みソフトを接続キットに添付

DC-2Lにはオプションとしてパソコン接続キットが用意されており、撮影した画像をパソコンに転送するためのソフトウェアとして、リコーの独自開発ソフトの「DU-2」が添付される。このソフトウェアは基本的な画像ファイルの取り込みだけで、画像処理はできない。ただ、連写されたデータをAVIに変換したり、画像ファイル形式を変換したりできる。JPEG、TIFF、GIF、PICT、BMPなどをサポートしている。

試用レポート

▶ 画質が良いバランスのとれた製品

操作は「記録」モードと「再生」モードにスイッチが分かれており、初心者でも分かりやすい。撮影するときには記録モードにしてリリースボタンを軽く押せば液晶モニターに撮影対象が表示されるので、構図を決めて押し込む。液晶モニターに撮影対象を常に表示させておきたい場合には、先にモニターボタンを押しておく。構図やピントを確認したら、リリースボタンを押し込む。撮影した画像を見たいときには再生ボタンを押し、矢印ボタンで見たい画面を選んでいく。

画像は発色の調整が良く鮮やかで、41万画素のカメラとしては画質はよい。もともと画質のよさでは定評のあるシリーズだっただけに、価格を安くしたこのモデルはおすすめだ。ある程度低輝度の被写体でも写せるので、「ストロボは必要ない」という人には最適である。価格も手ごろなバランスのとれた製品であると言える。

(編集部)

DC-2E



リコー株式会社



69,800円



0120-000475



ソフトケース、ハンドストラップ、ビデオケーブル、単3アルカリ電池4本



<http://www.ricoh.co.jp/dc/dc-2e/index.html>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp